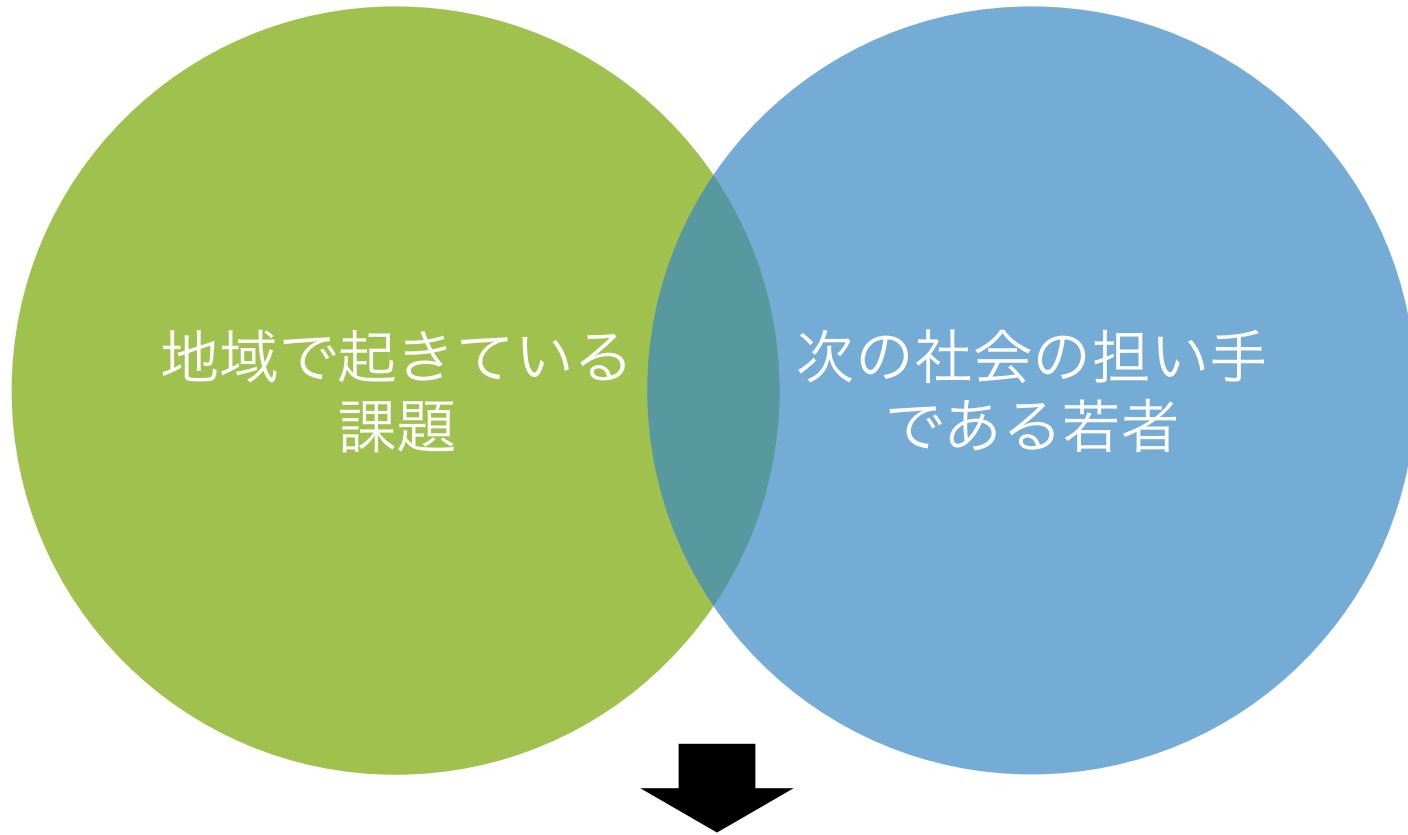


ROCK THE LIFE , ROCK THE FUTURE



地域づくりの現場に、若者が参加する仕組み



若者の主体性をどのように伸ばしていけるか。

12年で大体2万人の若者が参加
(たぶんそれくらい)

◆年間実績 (2017年度)

8プロジェクトが

18の道内の市町村で

301回 (のべ**356**日)

2,323人が活動に参加。

◆8つのプロジェクトチームと3つのサポートチーム



**環境対策活動
EarthCare**

野外音楽イベントや地域のお祭りなどでごみの分別ノビゲートなどをはじめとするごみに関する環境対策を実施。



**RSR
オーガニック
ファーム**

RSRで出る生ごみを苜蓿の手でリサイクル。生ごみと牛糞を何層も層押し、できた堆肥でじゃがいもを作り、それがRSRで米増産の手に戻る。



**石狩体験キッズ
「チボロ」**

札幌から車で35分の石狩で子どもたちの自然体験活動を行う。



ポロクル

札幌の自転車問題の解決を目指し、ルール・マナー啓発や、自転車を共有する仕組み「サイクルシェア」の規模拡充を行う。



**大雪山国立公園
旭岳自然保護
プロジェクト**

北海道最高峰にて「旭岳自然保護監視員」の方々と、登山道の整備等の自然保護活動を行う。



**プロジェクト
「NINOMIYA」**

森に眠る大利用材の蓄積力を過して、森林と都市部の若者をつなぐ。豊かな森林を次世代に残すため、都市部の若者に身近な木、森、森づくりについて伝えていく。



ポラ旅北海道

道内各地のNPCや市町村と連携し、教室で学んだ知識・技能を課題解決のための社会的活動に生かすサービスラーニングプログラム。



**澄川乾燥野菜
研究所
Sumi Lab**

防災のまち「澄川」で更なる防災向上のために、常温で長期保存できる、乾燥野菜の普及活動を行う。



研修部

円滑に活動を実施できる機活動で求められるファシリテーションやチームビルディングなどの知識や技術・マインドの向上を目的に研修プログラムを実施する。



広報部

活動がメンバー不足に陥らないよう、各プロジェクトの広報をレポートする。



交流部

プロジェクトを横断したつながりを持つ機会を提供し、プロジェクトを超えた情報共有や協力を生む。事務所の利便性の向上のため、備品やスペースの管理も実施。

根っこにある、ポリシーは、
野外フェスの基本方針

「Do It Yourself」

自分たちのことは、自分たちの手で。

Do It Yourself(=D.I.Y)の歴史

1945年、空襲を受けたロンドンにおいて、「自分たちのまちを、自分たちの手で復興させよう」というスローガンとして「Do It Yourself(=D.I.Y)」が使われた。



■ 空襲を受けたロンドン



■ 空襲直後の消防

D.I.Yの本質は、“主体的であること”



ススキノの外れ民家を改築したコミュニティスペース

各プロジェクトを推進するために必要なすべての拠点。ミーティングルーム、OA機器、活動に必要な書籍や資料、事務局スタッフによるサポート体制をそろえている。



イベント環境対策活動「Earth Care」

ごみをはじめとするイベントでの環境負荷を低減する活動。
RSRでは、発生するごみの約8割がリサイクルされ、会場もきれいに



RSRオーガニックファーム

RSRで発生した生ごみを回収し、一年間かけて堆肥化し、じゃがいもを栽培。
再びイベントの食材として戻す地域内資源循環の取り組み。
RSRでは、毎年約20tの生ごみがリサイクルされている。



未活用の森林資源の循環「プロジェクトNINOMIYA」

森林に眠る未活用の木材を回収し、薪に加工。札幌市内のカフェやゲストハウスなどに販売し、その収益の一部で若者への森林プログラムなどを提供する仕組み。年間約100立米の資源が有効活用されている。



石狩体験キッズ「チポロ」

福島県在住の子どもたちの自然体験活動をサポートした「ふくしまキッズ北海道ボランティアチーム」の意思を受け継ぎ発足。札幌近郊の石狩のフィールドを活用し、体験プログラムを提供。



サイクルシェア「ポロクル」

環境負荷の低い移動手段である自転車の共同利用の仕組み「ポロクル」の運営
自転車を取り巻く環境整備に関する提言と連動した取り組み。認定NPO法人ポロクルと連携。



防災×地域=乾燥野菜!?! 「Sumi Lab」

「防災によるまちづくり」を進めている札幌澄川地域と、東日本大震災における支援活動を行ってきた経験により、発足。地域のお母さんが、乾燥野菜の製造・販売を通して、防災意識の普及を行う取り組み。



ホップ

中島公園の事務所

作戦会議、勉強、
仲間集めなど



ステップ

都市部近郊での取り組み

現場になれる、
課題に取り組む

2011年3月11日 「東日本大震災」 発生





ただの支援活動ではなく、地域の人と一緒に
地域のことを考えながら活動した。

「何か起きてから動いていては遅い」

日頃の準備が大切

ひと・もの・・・そして、つながり



いつものつながりが、いざという時の力に 関係人口創出事業「ボラ旅北海道」

北海道各地の地域づくりの現場に、都市部の若手人材が参加する仕組み。
その結果、災害などの緊急時においても、迅速に対応が可能。



ホップ

中島公園の事務所

作戦会議、勉強、
仲間集めなど



ステップ

都市部近郊での取り組み

現場になれる、
課題に取り組む



ジャンプ

北海道各地の現場へ

地域と連携する
参加する

2017年9月14日 「石狩市浜益区大雨被害」 発生

子どもの自然体験受け入れなどで、お世話になっている
きむら果樹園でも大きな被害が出た。

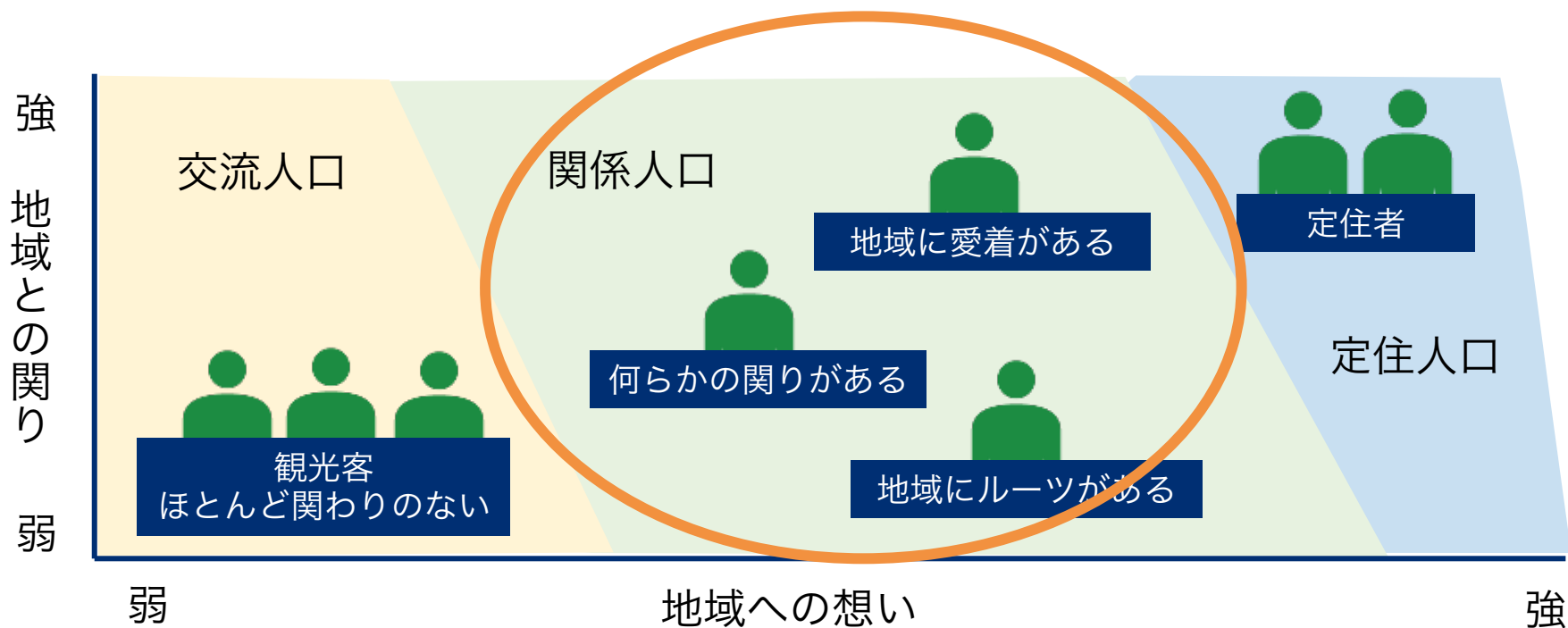


「いつもお世話になっている方・地域のために、
自分たちも何かできないか。」
ボランティアから声があがり支援活動へ。

活動日数：6日 活動人数：16名

関係人口

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しています。こうした課題に対し、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことが必要だと考えられます（総務省）。



2018年9月6日 「北海道胆振東部地震」 発生













9月12日～ 子どもプレーパーク支援（厚真町）



9月12日～ 子どもプレーパーク支援（厚真町）



9月12日～ 子どもプレーパーク支援（厚真町）



9月18日～ 子ども園、放課後児童クラブ支援（厚真町）



9月26日～ 放課後児童クラブ支援（むかわ町）



活動日数：57日 活動人数：243人（11月10日現在）

地震発生¹の2日後には、被災地²に。

迅速に地域のニーズ³に合った動き⁴ができたのは、
地域の人との信頼関係⁵があったから。
現場で求められること⁶に応えられる力⁷を持った
若者がいたから。

いつものつながりが、 いざという時の力に

3つのステップで構成されたいつもの活動が、
地域との繋がりと
北海道の課題を自分ごとだととらえられる若者を育てる。



いざという時、主体的に動ける力に。

ご清聴ありがとうございました。

ROCK THE LIFE , ROCK THE FUTURE

